科 目 区 分：学校教育実践コース音楽教育専修・芸術文化課程音楽文化コース（合同授業）
授業科目名：音楽理論・作曲法（編曲を含む）

音楽理論学習における問題点と改善

音楽教育講座　井上　洋一

１　授業の目的と概要

本授業は，音楽を学ぶ者や音楽を指導する者にとって必要不可欠な楽典や作曲及び編曲の基礎理論を習得することを目的としている。また，音楽科教育における創作指導の技能向上を目指すものであり，教員免許取得のための必修科目である。

２　授業の到達目標（ＤＰとの関連）

(1) 和声学の初歩的内容を正しく理解し説明できる。【ＤＰ１　知識・理解】

(2) 主要三和音及び属七の和音の設定や連結が各種の調性でできる。【ＤＰ３　技能・表現】

３　授業評価・研究の内容

(1) 音楽理論学習における問題点

本授業で扱う和声理論の理解には少なくとも高校の音楽科で扱う楽典のうち，音程や簡単な和音の知識・理解が必要である。しかし，音楽文化コースの入試では音楽理論の筆記試験を課す前期試験と課さない推薦入試がある。学校教育音楽教育専修では音楽の入試はない。このため，入学前の基礎的な音楽理論の理解や作曲技法の習熟度には大きな個人差がある。ちなみにレディネステストとして初回の授業で行った「音程に関するテスト」（10点満点）では，最高10点，最低1点，平均6.2点，標準偏差3.53であった。）

(2) Moodleの活用

個人差に対応するため，履修者個々の習熟度に応じた個別指導の時間が必要であるが，授業時間内に設定することは難しい。たとえば和声課題を実施する時間は履修者によって大きく異なる。授業時間内に提出し，その場で添削が受けられる履修者もいれば，数時間かかる履修者もいる。

そこで，本授業では本学のeラーニングシステムであるMoodleを活用し，授業内容の復習や課題提出をWeb上から行えるようにして，理解や課題実施に時間がかかる履修者に配慮した。

(3) ＤＰ対応調査から

教育コーディネーターが実施した「ＤＰ対応調査」の結果，本授業が【ＤＰ１　専門分野に関する知識・理解】に対応していたかという質問に対して「とてもそう思う」という回答は100％であった。同様に「ＤＰ３　教育活動に取り組むための技能」については80％が回答した。このことから，到達目標として掲げた(1) 和声学の初歩的内容の理解，(2) 和声学の理論を用いた基礎的な技能の習得に関しては，おおむね授業者の意図と履修者の認識が一致している。しかし，本授業の内容と音楽科教育における創作指導との関連について，教科教育法や教育実習を行っていない１年生後期段階では，認識が低く，調査結果においても【ＤＰ２　思考・判断】や【ＤＰ５　態度】との対応は低い結果となった。

４　授業時間外学習の促進

Moodleでは，授業内容の復習や課題提出の他，トピック上に関連する楽曲の音声や動画データ，参考となるHPへのリンクを貼り付けており，自宅やスマホで随時，参照できるようにしている。授業中に課題提出を済ませた履修者や，授業内容に興味をもった履修者には，発展的な学習ができるようにしている。

「ＤＰ対応調査」の回答者の授業時間外学習は，課題に対して平均1.6時間，自発学習に対して平均0.7時間の結果であった。これは，毎回の課題の量や難易度からみて，おおよそ予想通りであった。

５　成果と課題

Moodleでの課題提出は楽譜作成ソフトを用いたデータのアップロードによる。そのため楽譜作成ソフトの入門にもなり，今後の音楽デザイン基礎①②，音楽デザイン①～③の授業で本格的に行う楽譜作成に役立っている。ちなみに，26年度後期の音楽デザイン②の「ＤＰ対応調査」によると，授業時間外学習は，課題に対して平均4.0時間，自発学習に対して平均3.0時間の結果となっていることから，発展・応用的な内容になれば自然に授業時間外学習の時間も増えていくものと推察する。

最終課題「総復習テスト」(50点満点）の結果は，最高50点，最低38点，平均42.1点，標準偏差3.71であった。100点満点に換算し，初回に行ったテストと比較すると，平均点は62点から84点に上昇している。しかし標準偏差は3.53から3.71とやや大きくなっている。

Moodleを用いた個別指導は，授業の効率化や授業時間外学習の促進には効果はあるが，理解や習熟度の格差を解消することには，直接，結びついていない。